



つなげ。救援と応援のリレー



写真提供・取材協力
西諸広域消防本部／小林市立病院／救援の翼21／チーム小林47

被災地支援特集

小林市では、3月22日、宮城県塩竈市へ飲料水や食料などの支援物資を送付。また、義援金や支援物資の受け付けを開始すると、個人・団体を問わず、続々と支援が寄せられた。また、5月には職員を被災地に派遣。避難所で被災者への支援活動を行った。今後も随時派遣することになっている。

離れざるをえなくなった。自衛隊や消防による懸命な捜査活動。被災地には多くのボランティアが駆けつけた。この被災地に、小林市を出発し、被災地で活動を展開した人々がいる。使命を感じ、復興の一助となることを願って。これは捜索活動や医療支援、被災した人々へ物資と元気を届ける活動など、多岐にわたる。今回はそんな「小林人」の被災地での活動を紹介します。今、私たちにできることは何かを考える。

3月11日、14時46分、それは突然起こった。東北方太平洋沖を震源とするM9.0という日本史上最大級の地震。強く長い揺れに続き、巨大な津波が東北地方沿岸部を直撃し未曾有の被害をもたらした。被害は刻々と増え、状況を連日メディアが伝えた。瓦礫の山と化した市街地。家の基礎しか残っていない住宅街。港から数キロ離れた建物の上に漁船が乗っている姿などは、地震による津波の凄まじさを物語っていた。死者・行方不明者は2万人を超え、家族や家を失った多くの人が避難所での生活を余儀なくされた。さらに福島県では、福島第一原子力発電所が津波により深刻なダメージを受けた。この事故により、放射性物質が流出し、発電所から半径20キロ圏内を計画的避難区域に設定。そこに住む人々もまた、住み慣れた土地から

